



国土交通省道路局長 様

19 幹 第 3 号
平成19年5月7日

福島市長 瀬戸 孝則



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出(回答)

平成19年4月2日付国道企第114号で依頼のありました標記のことにつきまして、下記のとおり回答いたします。

記

○ 重点化を進める上で特に優先度の高い政策

道路施策の進め方

公共事業(道路整備事業)を進めるには、計画段階からの住民との協働が必要である。

この度の一般国道13号福島西道路の南伸検討においては、南伸の必要性検討の当初から、検討の進め方等に意見・助言をいただく委員会と事業主体(国)、地元自治体(県・市)、地域住民とによる「市民参画型の道路計画」を進めていただき、南伸の概略計画案が選定されました。

今後の道路計画を進めるためには、住民も参画していただき道路の必要性・道路整備の効果等をふまえた協議を進めていくことが必要である。

○ 効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

高速ネットワークの効率的活用

高速道路の利便性を有効活用するための、スマートインターチェンジ社会実験は評価できる。

福島市の松川PAスマートインターチェンジが恒久化となり、福島医科大利用者、又救急上搬送時間が短縮し喜ばれており、さらに、インターの設置により地元地区はもとより近隣市町村地区への利便性も向上し、地域振興の一役を担う重要な施設で、現在IC利用台数も順調に増加している。

しかし、東北地方の高速道路ネットワーク整備は未だ途上であり、効率的活用の上からも整備推進を図る必要がある。

○ その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関する意見

道路は日本の経済成長にあわせ整備も進んできたが、これまでの道路政策は効率性を重視したものであった。このへんで道路というものを振り返ってみることも必要と思う。どうして此处に、何の必要があって等と、造られた当時の道歴史を確認すれば道の必要性もわかってくる。昔の道は地域と地域の交流や物流に主に使われ、街道沿いには家屋が建ち集落となり地域へと発展するなど、街道は沿線住民にとって重要で身近なものであった。

地方分権の進展に対応するため、自治体相互補完を行う広域連携の必要性から、更には地域間連携と交流を促進する道路整備は必要である。

なお、道路整備にあたっては利用する住民の目線にあるべきもので、親しみのもてるものでなければならない。